

令和2年定例3月会議一般質問

質 問 者	質 問 事 項 及 び 要 旨	質 問 の 相 手
近 藤 隆 二 郎	<p>地域が共に支え合う社会の実現について</p> <p>本町は、小さなコミュニティであり、隣近所との相互依存関係が豊かに存在してきたが、超高齢化社会を迎えるにあたり、新しい支え合いの仕組みが必要になっている。</p> <p>そこで、以下の点について町長に伺う。</p> <p>(1) 在宅医療について</p> <p>自身の家に住み続けることが元気や幸せ度の向上には基本となっている。しかしながら、本町においては、訪問看護や訪問介護サービスを提供する事業者が無いということで、それらの仕組みは実現されていない。在宅医療についてどのように考えているか。また、診療所、健康管理センター、介護事業者、自治会などの連携をどうとっていくか。遠隔診療の診療報酬等が改定されたことで、本町において遠隔診療は可能になるかどうか。</p> <p>(2) 人材バンクについて</p> <p>地域支え合いには、誰もが誰かを支える仕組みが必要となる。その意味で、地域にいる人材がちょっとしたボランティア支援をするような、人材バンクが必要である。福祉のみならず観光や買い物でも必要となるが、そのような構想は無いか。同時に、ボランティアポイントのような町内での支え合い循環システムもあると取り組みやすいが、どうか。</p>	町 長
	<p>ひとり親家族の移住支援について</p> <p>3人に一人が離婚する時代であり、ひとり親家族が増えている。本町でも、移住者ターゲットをより明確にしてはどうか。</p> <p>例えば、北海道幌加内町では、中学生以下のお子さんと同居する町外のひとり親家族（シングルペアレント）の方が、町内の介護事業所に就職し、町内に家族で定住することが出来る方を対象に、様々な支援制度をはじめており、すでに、5世帯14名の方が移住されている。</p>	町 長

	<p>こういったシングルペアレント家族を対象にしてはどうか。</p> <p>また、これら事業を進める「ひとり親地方移住支援ネットワーク会議」に所属してはどうか。他の地域から移住し、働く意欲のあるひとり親およびその家族を受け入れる事業を実施している全国の団体が連携した組織であり、北海道幌加内町、群馬県上野村、長野県須坂市、兵庫県神河町、島根県浜田市が所属している。</p>	
松屋治郎	<p>本町の地方創生（人口減少対策）について</p> <p>小値賀町は少子高齢化が進み、人口減少に歯止めがかからない。</p> <p>優秀な人材や若者の流出で本町の基幹産業を始め、役場、漁協、担い手公社、診療所、保育所、老人施設等あらゆる所で人手不足、人材不足が深刻化している。</p> <p>働く場、雇用の場はあるのに若者を中心に高収入で労働条件、労働環境の良い所を目指し島外へ流出している。このような事が本町全体の活力、また、生産性の低下に繋がり、収入減、低賃金、雇用、労働条件の悪化へ、との悪循環となり、結果、人口減少となっている。</p> <p>この悪循環をいかに改善し好転させるかが本町の地方創生（人口減少対策）の大きなポイントだと考えます。</p> <p>そこで、次の3点について町長に伺う。</p> <p>① 賃金を始め雇用環境の改善策について</p> <p>② 安心して住める、医療、子育て環境等の住民福祉の充実について</p> <p>③ 本町で働く人の人材育成及び人材確保対策について</p>	町長
宮崎良保	<p>宇久小値賀家畜市場の統合について</p> <p>去る2月5日における宇久小値賀家畜市場開設にJAながさき西海農協の代表理事組合長が来訪し、翌日6日の午前中に宇久支店会議室において市場統合の説明会が開催された。</p> <p>内容は8月以降に宇久小値賀家畜市場を閉鎖し、平戸口中央市場へ統合するというもので、市開催日前日の午後フェリーに乗せて搬入するというものである。</p> <p>小値賀町の畜産農家は宇久町への搬入経験があること、また、</p>	町長

	<p>多頭飼育農家にとっては価格面と毎月の市の開催によって畜産経営にとって良い事だと概ね賛同しているが、一方でリスクも高くなり本当に畜産経営に良い方向へ向かうのかなといった危惧がある。</p> <p>町長は選挙公約において円滑な市場統合へ努力すると公言しているが、どのような考えで公約の実現を目指すのか伺う。</p> <p>① 輸送コストの増に対するリスクの軽減策は</p> <p>② 人の宿泊費などの交通費の軽減策は</p> <p>③ 子牛の移動中のストレスによる体重及び毛並みの劣化による価格への対応策は</p> <p>④ 子牛の輸送時の事故等が発生した場合の対応策は</p> <p>⑤ コスト高を軽減するには素牛の増頭が必要と考えるが対応策は</p>	
<p>今 田 光 弘</p>	<p>北松西高校の修学(研修)旅行費用に対する町の助成について</p> <p>北松西高校の修学旅行は、令和2年度から行き先を国内から海外へと変更し、費用の一部を町が助成する方向であると、昨年12月の総務文教厚生常任委員会にて教育委員会から説明を受けた。</p> <p>そこで、以下の点について教育長に伺う。</p> <p>① 行き先は今のところシンガポールとマレーシアを予定しているとのことだが、行き先が国内から海外へとシフトした理由と経緯について高校から聞いているか。</p> <p>② 長崎の県立高校の修学旅行の行き先や旅費の基準を把握しているか。</p> <p>③ 実際にかかると思われる生徒一人の旅行費用と、そのうち町はいくらくらい助成しようと考えているのか。</p> <p>④ 小値賀中学校の生徒全員が必ずしも北松西高校に行くとも限らない中で、なぜ町が助成しようとするのか理由を伺う。むしろ義務教育である中学校の修学旅行費用を全額助成した方が有意義だと思うがいかがか。</p> <p>⑤ 町として海外旅行は「高校の魅力化」の一環としているようだが、町が考える「北松西高校の魅力化」とは何か。何を目標そうとしているのか伺う。</p>	<p>教 育 長</p>

